

オンライン大学における新入生オリエンテーション効率化のためのポータル導入

Designing of the portal site for effective freshman's orientation experiences at an online university

新垣 円^{*1} 宇野 令一郎^{*1} 加地 正典^{*1}
 Madoka ARAGAKI^{*1} Reiichiro UNO^{*1} Masanori KAJI^{*1}
^{*1} ビジネス・ブレイクスルー大学経営学部

^{*1}School of Business, Business Breakthrough University
 Email: aragaki@ohmae.ac.jp, uno@bbt757.com, kaji@bbt757.com

あらまし：オンライン大学において、新入生オリエンテーションは対面指導を行う限られた機会である。一方、オンラインのよさを活かし、いかに効率よく効果的に行うかは円滑な導入のための重要なポイントとなる。今年度は、新規に新入生ポータルを用いたことで、新入生へのアプローチを改善し、入学前に必要な事前準備を促すとともに、集合オリエンテーションを効率よく実施した。その成果を報告する。
 キーワード：オンライン大学、ポータルサイト、オリエンテーション

1. はじめに

新入生が円滑に大学生活に移行するための初年次教育および導入教育については、その後の学業成績や継続状況への影響から、重要性が指摘されている⁽¹⁾⁽²⁾。特に、継続の難しいオンライン大学においては、導入教育の果たす役割は大きく、対面指導できる場面の制限から、課外のオリエンテーションの効果的な活用が重要となる。本発表では、特区制度を利用し、完全オンラインで授業を行うビジネス・ブレイクスルー大学において、オンラインと対面を組み合わせることで実施したオリエンテーションに新入生用ポータルを導入し、コストダウンを図ると同時に、新学期の発言状況の改善を果たした取り組みを報告する。

2. オリエンテーションの設計

2.1 既存の取り組みの問題点

2012年春学期入学生までは、初年次教育を科目として設けておらず、授業開始後に困難を訴えた学生に個別のフォローを行っていた。2012年秋学期には、新入生全学生を組織的にフォローできるよう、初年次教育科目「スタートアップゼミ」を新規開講し、オリエンテーション時には新入生を会場に集め、パソコン指導を対面で実施した。その成果として発言状況の改善などが見られたものの、大きく三つの問題があげられた。一つ目として、新入生に必要な情報が科目やそのほかのLMS上のページに分散し、学生にとってわかりにくく、大学側にとっても使い方を説明する手間が必要であることがあげられる。二つ目として、対面指導に来ることのできない海外在住学生等をカバーして指導できないことがあげられる。最後に、秋学期入学生に対して数が二倍以上となる春学期入学生に、同様の対面指導を行う場合、会場の手配やパソコンの手配にコストがかかることがあげられる。以上より、2013年春学期より情報を

一元化したポータルを新規導入し、入学前課題を設けることで、本学の学習に必要なパソコンスキルのチェックを行い、対面指導が必要な学生のスクリーニングを行うこととした。

2.2 初年次教育のグランドデザイン

初年次教育全体のデザインについては、1. 新入生用ポータルサイト、2. 履修ガイダンス、3. 入学オリエンテーション、4. 初年次必修科目「スタートアップゼミ」において、先行研究⁽³⁾⁻⁽⁵⁾で挙げられている初年次教育の要素をモレ・ダブリなく組み込むことを意識して設計を行った。

2.3 新入生ポータルのデザイン

本学LMSのトップページに入学期間中「新入生ページ」バナーを表示し、入学期間後も確認できるよう一階層深いページに表示しておくこととした。

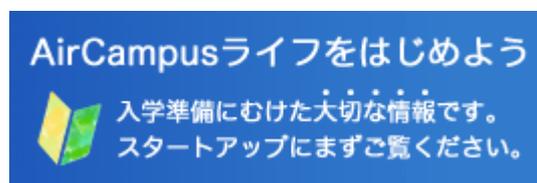


図1 新入生ページバナー

ページ内では新入生が入学時にすべきことをSTEP1～STEP3の3段階に分け、順番にこなしていくことで自然と入学準備のできる導線をわかりやすく配置した。それぞれの要素は以下の通り。

STEP1 スケジュールをみわたそう

卒業までの流れをイメージするため、学修ガイドを掲載するとともに、イベントの予定が書かれたカレンダー機能を搭載し、入学前ガイダンス、入学式、オリエンテーションの参加申請ページへのリンクを作成した。

STEP2 学習の環境を整えよう

受講環境を整えるため、本学の動画再生チェックページへのリンクを掲載した。また、学習の進め方を確認するため、本番の授業ページと同様の機能を持った練習用授業ページへのリンクを設置し、その授業内でディスカッションへの書き込みの練習をさせるため、自己紹介することを事前課題とした。この部分が、秋学期には集合研修で行っていた部分である。この課題により、書き込みのできる学生とできない学生を振り分けることを目指した。

STEP3 履修登録をしよう

履修計画を立てることを目的とし、シラバスへのリンク、履修登録ページへのリンクなどを設けた。また、教科書一覧等を掲載した。

ページの最後に、問い合わせ先一覧を掲載した。



図2 ポータル画面

3. 効率化の成果

2012年度秋学期オリエンテーション対象者は62名に対し、2013年度春学期オリエンテーション対象者は121名と約2倍に増加した。一方、パソコン指導を2012年秋学期には全員に実施したのに対し、2013年春学期にパソコン指導を希望した者は36名であった。指導が必要な学生を振り分けることにより、パソコンのレンタル費用および指導の人的費用を削減することができた。また、学生にとっては早くから本学の授業システムを利用し、同級生とオンライン上でコミュニケーションを取り始めたことにより、入学への不安感も軽減できたと考えられる。

授業内での平均発言数は、初期から増加し、2012年度春期新入生が4月第4週に31.4であったのに対し、2013年度春期新入生においては45.9であり、その後も20書き込みほど多い状態で推移した。平均受講完了割合においては、2012年度春期新入生が4月第4週に39.4%であったのに対し、2013年度春期新入生においては45.3%であり、その後も10%ほど多い状態で推移した。

4. まとめと今後の課題

2013年度春期に、初年次教育のグランドデザインを見直し、新入生ポータルを導入したことにより、オリエンテーション時のコストを削減したとともに、書き込み数、受講完了率の向上が見られ、円滑な導入が行われたと考えられる。また、ポータル導入により、オンライン上の情報を整理し、オンラインでの事前課題を設けたことにより、対面のオリエンテーションに参加できない学生の利便性も向上したと思われる。現在、学期進行中であることから、今後の新入生の動向をリテンション状況なども併せて引き続き注視してゆく必要がある。また、新入生にヒアリング等を行い、より使いやすく効率的なポータルおよび初年次教育全体を改善してゆく余地が残されている。

参考文献

- (1) Jamelske, Eric. "Measuring the impact of a university first-year experience program on student GPA and retention", Higher Education, Vol.57, No.3, pp 373-91 (2009)
- (2) Cox, Pamela L; Elizabeth Dunne Schmitt; Bobrowski, Paula E; Graham, Glenn. "Enhancing the First-Year Experience for Business Students: Student Retention and Academic Success", Journal of Behavioral and Applied Management, Vol.7, No.1, pp 40-68 (2005)
- (3) Reiko, Yamada. "A comparative Study of Japanese and US First-year Seminars: Examining Differences and Commonalities", 広島大学高等教育研究開発センター大学論集第39集, pp.287-305 (2008)
- (4) 山田礼子: "大学における初年次教育の展開", クオリティ・エデュケーション, 第2巻, pp.157-74 (2009)
- (5) 渡邊席子: "日本の大学における初年次教育に関する質問し調査研究", 大阪市立大学『大学教育』第5巻第1号, pp.47-63 (2007)